

勸化本書誌解題（九）

—実践女子大学図書館山岸文庫所蔵本 その三—

土屋 順子

はじめに

実践女子大学図書館山岸文庫所蔵の勸化本九作について報告をする。すでに、「その一」として「勸化本書誌解題（五）」（「実践女子大学芸芸資料研究所 年報」17号、平成10年3月）に山岸文庫所蔵の勸化本十作、「その二」として「勸化本書誌解題（八）」（同22号、平成15年3月）に勸化本六作の書誌・解題を報告しており、その続編である。

凡例

- 一 書名は『国書総目録』に準じた。
- 一 書名の下に、（ ）を用いて、請求番号を記した。
- 一 原則として初版本の刊行順に配列した。
- 一 同一内容の本が二点以上ある場合は、便宜上「A」「B」と区別した。
- 一 漢字の表記は、原則として旧字体は新字体に改め、異

体字を通行の文字に変えた。

一 本文等の引用は私に句読点を補い、適宜ルビを取捨した。

一 欠落・虫損等で判読不可能の文字は「□」で補った。

一 「構成」の項では各巻毎に合計丁数を示し、(一)内に、各項目丁数、「」を用いて丁付を記した。丁数の記載がない場合は「ナシ」と記した。丁の表で終わっている場合は「表」と表記した。

一 「備考」に参考論文、翻刻を掲載した。

なお、「備考」に記した「解題(一)」とは、拙稿「勸化本書誌解題(一)」(『実践国文学』46号、平成6年10月)、「解題(二)」とは、拙稿「勸化本書誌解題(二)」(『実践国文学』48号、平成7年10月)のことである。

仏神感応録 (二六〇四)

書型 大本八卷八冊。

表紙 黄土色無地。縦二十六・六糎×横十八・二糎。

外題 子持ち梓左肩「三国因縁」 一(一八)。

縦十八・一糎×横三・二糎。卷一は題簽剥落、

打付け書き。卷二・四は角書き部欠。卷六も題

簽剥落、卷数「六」のみ打付け書きで記す。

序題 「仏神感応録序」。

目録題 「仏神感応録 卷第一(一八) 目録」。

内題 「仏神感応録 卷第一(一八)」。

尾題 「仏神感応録 卷一(一八)」。卷二のみ「終」と付く。

版心 「黒魚尾」 仏神感応録卷一(一八)(丁付)。

序文 「昔／宝永屠維赤奮若歲鐘中澗／湖東学摩訶

跋文 衍沙門／弄幻子稽顙題／印印」。

構成 「無し」。

一之卷 三十六丁(序二丁「二」「二」、引用書

目十四丁「三」「四」：「十六」、目録半丁

「二」〈表〉、本文十九丁半「二」「三」：「九」

「十ノ十五」：「二十六」〈表〉。

二之卷 十八丁半(目録半丁「二」〈表〉、本文

十八丁「二」「三」：「十九」。

三之卷 二十二丁半(目録半丁「二」〈表〉、本

文二十二丁「二」「三」：「十」「十一ノ十五」

：「二十七」。

四之卷 二十丁(目録半丁「二」〈表〉、本文十

九丁半「二」「三」：「十」「十一十五」：「二

十五」〈表〉。

五之卷 二十二丁半(目録二丁「二」、本文二

十一丁半「二」「三」：「十五」「十六ノ廿

「二十一」：「二十七」(表)。

六之卷 二十三丁(目錄一丁「二」、本文二十丁「二」「三」：「九」「十ノ十五」：「二十八終」)。

七之卷 二十二丁半(目錄一丁「ナシ」、本文二十丁半「一」「二」：「十四」「十五ノ二十」「二十一」：「二十六」(表))。

八之卷 二十二丁半(目錄半丁「二」(表)、本文二十丁半「一」「二」：「九」「十ノ十五」：「二十六」(表)、刊記半丁「二十六」(裏))。

本文匡郭 四周単辺。無界。縦二十・九糎×横十五・三糎。用字 一面八行 漢文。

挿絵 無し。作者 弄幻子。刊記 「宝永七^{庚寅}曆九月吉日／洛陽書肆 永田調兵衛鋳梓」。

廣告 「右仏神感応録前編八卷 後集八冊来／辛卯正月出来焉」(刊記右側)。

備考 パークレー三井所蔵本(国文学研究資料館マイクロによる)と同版。広告にもあるように、二編十五卷十五冊で、該本はそのうちの前編にあたる。

「所引用之経論及和漢書目」として、五百五部に及ぶ引用書目を掲載する。

薬師如来瑞応伝 A (二六二二)

書型 大本五卷五冊。

表紙 縹色布目型押文様。縦二十六・五糎×横十九・一糎。

外題 子持粹左肩「^{因縁}説法薬師靈験記一(〓五)」。縦十八・六糎×横三・六糎。

序題 「薬師如来瑞応伝序」。

目錄題 「薬師如来瑞応伝卷之一(〓五) 目錄」。

内題 「薬師如来瑞応伝卷之一(〓五)」。

尾題 「薬師如来瑞応伝卷之一(〓五)終」。

版心 「黒魚尾」瑞応伝卷之一(〓五)〇(丁付)。「享保十一年龍集丙午孟春初八日和泉国大鳥郡平井邑宝林山安樂寺苾芻超海通性書／印印」。

序文 一之卷 二十七丁(序二丁「一」「二」、目錄一丁「一」、本文二十四丁「一」「又二」「三」：「二十三」)。

構成 二之卷 三十二丁半(目錄一丁「ナシ」、本文三十一丁半「一」「二」：「三十二」(表))。三之卷 二十五丁半(目錄一丁「一」、本文二

十四丁半「二」「三」…「二十六」(表)。

四之卷 二十七丁(目録一丁「ナシ」、本文二

十六丁「一」「二」…「二十六」。

五之卷 二十七丁(目録半丁「一」(表)、本文

二十六丁半「二」「三」…「二十八」(表)。

本文匡郭 四周单边。縦二十・三糶×横十五・八糶。

用字 序 七行 漢字交じり片仮名、ルビ付。

本文 十一行 漢字交じり片仮名、ルビ付。

挿絵 無し。

作者 超海通性。

刊記 「享保十二年未八月吉日」と年紀があるのみ。

備考 大正大学図書館所蔵本と同版。該本は山岸文庫

所蔵本Bの刊記「享保十二年未八月吉日」書林

撰州大坂高麗橋一丁目／浅野弥兵衛」から、書

肆名を削除し、年紀のみを残す。該本につい

て、国文学研究資料館マイクロフィルム(ヤ3

14614/0476)がある。

薬師如来瑞応伝 B (二六二二)

書型 大本五卷合一冊。

表紙 藍色無地。縦二十六・二糶×横十八・五糶。

外題 左肩に打付け書き「薬師如来瑞応伝完」(墨筆)。

題簽の剥落の跡あり。

序題 「薬師如来瑞応伝序」。

目録題 「薬師如来瑞応伝卷之一(五)目録」。

内題 「薬師如来瑞応伝卷之一(五)」。

尾題 「薬師如来瑞応伝卷之一(五)終」。

版心 「黒魚尾」瑞応伝卷之一(五)〇(丁付)。

序文 「享保十一年龍集丙午孟春初八日和泉国大鳥郡

平井邑宝林山安樂寺苾芻超海通性書」印。

構成 一之卷 二十七丁(序二丁「一」「二」、目録一

丁「一」、本文二十四丁「一」「又」「二」…

「二十三」)。

二之卷 三十二丁半(目録一丁「ナシ」、本文

三十一丁半「一」「二」…「三十二」(表)。

三之卷 二十五丁半(目録一丁「一」、本文二

十四丁半「二」「三」…「二十六」(表)。

四之卷 二十七丁(目録一丁「ナシ」、本文二

十六丁「一」「二」…「二十六」)。

五之卷 二十七丁(目録半丁「一」(表)、本文

二十六丁半「二」「三」…「二十八」(表)。

本文匡郭 四周单边。縦二十・三糶×横十五・七糶。

用字 序 七行 漢字交じり片仮名、ルビ付。

本文 十一行 漢字交じり片仮名、ルビ付。

挿絵 無し。

作者 超海通性。

刊記 「享保十二年未八月吉日／書林 摂州大坂高麗橋 一丁目／浅野弥兵衛」。

備考 『享保以後大阪出版書籍目録』には「薬師如来 瑞応伝五冊／作者安楽寺／板元藤屋弥兵衛／出 願享保十一年六月廿四日」とあり、「割印帳」 には享保十二年十二月に「享保十二年八月吉 日／薬師瑞応伝 五冊／作者和泉国安楽寺／板 元 大坂浅野弥兵衛／売出し 出雲寺」とある。 浅野弥兵衛の刊記を有する本は、管見の範囲で は該本のみ。山岸文庫所蔵本A(二六二一)・ 大正大学図書館所蔵本は、書肆名が削除され、 卷之五末尾に年紀があるのみ。大谷大学図書館 蔵本は「禅家書林／京師六角通寺町西江入町／ 柳枝軒小川多左衛門刻」の刊記を持つ後印本。 序文には「往昔ノ奇瑞ヲ青史遺編ノ中ニ拾ヒ。 当今ノ靈応ヲ耳伝口碑ノ間ニ聚メ。コ、ニ一書 ニ綴リ。命テ薬師瑞心伝ト云。卷ヲ散テ五 トス。意 五道ノ得益ニ配セリ。」と成立の事 情を記す。

※「解題(二)」参照。

因果応報要略 (二五九四)

書型 大本八卷八冊。

表紙 縹色無地。縦二十六・〇糎×横十八・六糎。 子持ち枠左肩「因縁因果応報要略一(一八)」。

外題 縦十七・五糎×横三・二糎。卷一はほとんど剝 落しており、その上から墨筆で書名を補う。卷 三は「応報要略」を残し、角書きは剝落。

目録題 「因果応報要略」。

内題 「因果応報要略第一(一八)終」。

序文 「因果応報要略第一(一八)終」。

跋文 「因果応報要略第二(一八)〇(丁付)」。

跋文 「享保十三戊申初夏仏誕日／洛西前浄円教寺沙 門盤察七十歳九歳」。

跋文 「無し」。

構成 一之卷 二十三丁半(序一丁「二」、目録一丁 「二」、本文二十二丁半「三」「四」：「二十四」)。

二之卷 本文二十六丁「二」「三」：「二十六」。

三之卷 本文二十三丁半「一」「二」：「二十 四」(表)。

四之卷 本文十四丁「一」「二」：「十四」。

五之卷 本文十三丁半「一」「二」：「十四」 (表)。

四(表)。

三(表)。

二(表)。

一(表)。

一(表)。

六之卷 本文二十丁「一」「二」……「二十」。

七之卷 本文十五丁「一」「二」……「十五」。

八之卷 本文十九丁「一」「二」……「十九」。

本文匡郭 四周単辺。無界。縦二十一・二糎×横十五・八糎。

用字 序 一面十一行 漢文。

挿絵 本文 一面十一行 漢字交じり片仮名 ルビ付。

作者 無し。

刊記 「洛西前浄円教寺沙門盤察撰」(内題下)。

識語 「享保十三^{戊申}歲八月穀旦／武都書林／日本橋

南一丁目／須原茂兵衛／皇都書林／堀川通綾小路下ル町／錢屋庄兵衛／梓行」。

備考 「昭和二十八年夷則十八日／於琳琅閣求之 岸

廼舍」(墨筆)。

「割印帳」で確認すると、享保十三年十一月に、

「因果応報要略 八冊／享保十三^{戊申}初夏仏誕

日／洛西前浄円教寺 沙門盤察撰／板元 京堀河

錢屋庄兵衛／売出江戸 須原屋茂兵衛」とある。

作者盤察については、他に『勸化求道集』(享

保八年)・『勸化南針鈔』(同八年)の著作があ

る。

※「解題(二)」参照。

道成寺靈蹤記 (二二六四)

書型 大本六卷六冊。

表紙 縹色無地。縦二十五・八糎×横十八・二糎。

外題 子持ち梓左肩〔梵鐘〕道成寺靈蹤記一(一)五本

(末)〔末〕。縦十七・六糎。卷三・四・五は剥落、

卷数のみ打付け書きで「三」・「四」(墨筆)と

記す。卷五本、五末は題簽が一部残っているが

外題はほとんど読めない。

序題 〔梵鐘〕道成寺靈蹤記序」。

目録題 「道成寺靈蹤記卷一(一)五) 目録」。

内題 「道成寺靈蹤記卷之一(一)四・五本(末)」。

尾題 「道成寺靈蹤記卷之一(三・四・五)終」「道成

寺靈蹤記卷二(五末)終」。

序文 「黒魚尾」道成寺 卷一(一)五) (丁付)。

跋文 トキコロ「時維元文四年未年。仏制日／南予古 神野

郡 九峯叟礼淵自 序」。

構成 一之卷 十八丁(序二丁「初」「二」、目録半丁

「三」〈表〉、本文十五丁半「四」「五」……「十九

〈表〉)。

二之卷 二十二丁(目録半丁「初」〈表〉、本文

二十一丁半「二」「三」……「二十三」〈表〉)。

三之卷 十八丁(目録半丁)「初」(表)、本文十七丁半「二」「三」:「十九」(表)。

四之卷 十七丁(目録二丁)「初」、本文十六丁「二」「三」:「十七」。

五本之卷 十七丁半(目録半丁)「初」(表)、本文十七丁「二」「三」:「十八」。

五末之卷 二十一丁(目録二丁)「十九」、本文二十丁「二十」「二十一」:「三十九」。

本文匡郭 四周单边。縦十九・五糎×横十四・八糎。

用字 序 一面八行 漢字交じり片仮名 ルビ付。 本文 一面十行 漢字交じり片仮名 ルビ付。

挿絵 無し。

作者 礼淵。

刊記 「寛延三^{庚午}正月吉旦」書林/江戸日本橋通一町目 梅村弥市郎/大坂心齋橋安等寺町 大野木市兵衛/京二条通油小路東入町 田中甚兵衛。

広告 「小夜中山靈鐘記無間ノ鐘ノ全部五冊」右出来仕候御求御読可被下候」(卷五卷末)。

識語 「文政元歳/西沢橋説主」(墨筆)。
「昭和十二年姑洗上浣/岸廼舎」(墨筆)。

備考 架蔵本、大妻女子大学図書館所蔵本、国立東京博物館所蔵本、東海女子短期大学哲誠所蔵本

(資料館マイクロによる)、中村幸彦氏所蔵本(資料館マイクロによる)と同版。彦根城博琴堂所蔵本(資料館マイクロによる)は、寛政七年著屋儀兵衛刊の後印本。『割印帳』で確認すると、寛延三年庚午十月二日の割印に「道成寺

靈蹤記 全六冊/墨付百十八丁/同三午正月/九峯作/板元 京 藤屋武兵衛/梅村弥市郎」とある。

道成寺の縁起傳承を描きつつ、紀州の地名由来、徐福説話、業平小町傳承など、説話を挿入する。堤 邦彦氏「長篇勸化本の意義」(「読本研究」

十輯上套、平成8年11月)。

即席法談 (二五二九)

書型 大本三卷三冊。

表紙 灰色布目型押し文様。縦二十五・六糎×横十八・一糎。

外題 子持ち柶左肩「親小讀即席法談」上(中・下)。

縦十六・七糎×横二・七糎。書名と巻数の間、墨で塗り潰しあり。

目録題 「即席法談」序。

目録題 「親小讀即席法談 卷上(中・下)」。

内題 「觀小讀即席法談卷上(中・下)」。
尾題 「十四首即席法談卷上(中・下)終」。

版心 「即席法談 二編 卷上(中・下) (丁付)」。
序文 「安永乙未之春 粟津觀樹堂 釈義圭撰」。

跋文 「無し」。

構成 上卷 二十八丁(序一丁「ナシ」、目録一丁「上目」、本文二十六丁「二」「三」…「二十六」)。
中卷 二十五丁(目録一丁「目」、本文二十四丁「一」「二」…「二十四」)。

下卷 二十九丁(目録一丁「目」、本文二十六丁「一」「二」…「二十六」、藏版目録二丁「真一」「真二」)。

本文 四周边。無界。縦二十・五糎×横十四・八糎。

用字 一面八行 漢文。

挿絵 本文 一面十行 漢字交じり片仮名 ルビ付。無し。

作者 「粟津義圭述」(各卷内題下)。

刊記 「無し」。

蔵版目録 「皇都書林 文昌堂蔵版目録／花屋町西洞院西へ入町／永田調兵衛」二丁。

備考 初版は安永四年であるが、該本には刊記はない。北海大学附属図書館(北駕文庫)所蔵本も同。安永二年刊『大経和讀即席法談』の続編。浄土和

讀のうち、觀經意と弥陀經意をとりあげて、解説する。上卷五座、中卷五座、下卷七座を収録する。

作者の粟津義圭は、近江国響忍寺の学僧で三十余の著作を残す。

粟津義圭について、後小路 薫氏「粟津義圭著述略考」(『文芸論叢』21号、昭和58年9月)に詳しい。

即席法談 (二五二八)

書型 大本三卷三冊。

表紙 後補改装葡萄酒茶色無地。縦二十五・八糎×横十・四糎。

外題 左肩打付け書き「即席法談上(中・下)」(墨筆)。

目録題 「即席談序」。

内題 「浄土和讀即席法談卷上(中・下)」。
「四十八首即席法談卷上(中・下)」。
「浄土和讀即席法談卷上(中・下)」。

版心 「上編 即席法談卷上(中・下) (丁付)」。

跋文 「安永庚子春 門人恵界謹識」印。

構成 上卷 五十三丁(序一丁「一」、目録一丁「乙」、

本文五十一丁「一」「二」：「五十一」。

文殊靈驗集 (二五八八)

中卷 五十五丁半(目録一丁「乙」、本文五十

四丁半「一」「二」：「五十五」(表)。

下卷 五十七丁半(目録一丁「乙」、本文五十

五丁半「一」「二」：「五十六」(表)、刊記一

丁「五十六」(裏、裏見返)。

四周単辺。無界。縦二十・四糧×横十四・四糧。

用字 一面八行 漢文。

本文 一面十行 漢字交じり片仮名 ルビ付。

挿絵 無し。

作者 「粟津義圭述」(各卷内題下)。

刊記 ①「安永九年^{庚子}孟春／書林／大坂高麗橋一丁

目／藤屋弥兵衛／同心斎橋筋唐物町／北田清佐

右衛門／京寺町通松原下^ル町／菊屋喜兵衛／同

東六条下珠数屋町／丁子屋九郎右衛門」(最終

丁(裏)。

②「皇都書林 五条通柳馬場西へ入^ル町 菱屋

亦兵衛」(奥付)。

備考 安永二年刊『即席法談』、安永四年刊『即席法

談』の続編。浄土和讃のうち、讃阿弥陀仏偈の

和讃四十八首を取り上げて解説する。上卷十五

座、中卷十五座、下卷十四座を収録。

書型 大本三卷三冊。

表紙 黄土色無地。縦二十六・六糧×横十七・九糧。

外題 左肩に打付け書き「文殊師利靈驗集一(三)」。

目録題 「文殊師利菩薩靈驗集 卷第一(三) 目録」。

内題 「文殊師利菩薩靈驗集 附録」「文殊師利菩薩

靈驗集卷第一(三)」。

尾題 「文殊師利菩薩靈驗集附録 竟」「文殊師利菩

薩靈驗集 卷第一竟(二竟・三大尾)」。

版心 「黒魚尾」文殊靈驗集卷之一(三・附録)

(丁付)。

跋文 「寛政十一年十月既望沙門大寂謹記 于龍華文

室」。

構成 附録(上卷) 三十二丁(目録一丁半「ナシ」、

本文三十丁半「一」「二」：「三十一」(表)。

一之卷(上卷) 二十四丁(本文二十四丁「乙

「二」：「二十四」)。

上卷計五十六丁。

二之卷(中卷) 四十五丁半(目録三丁「一

「二」「三」、本文四十二丁半「乙」「二」：「四

十三」(表)。

三之卷(下卷) 四十八丁半(目録三丁半「一

「二」：「四」〈表〉、本文四十三丁半「乙」「二」

：「四十四」〈表〉、跋文一丁「四十四」〈裏〉

「四十五」〈表〉、刊記半丁「四十五」〈裏〉。

左右双辺。縦二十・四糎×横十四・三糎。

本文 一面十行 漢文。

挿文 一面十行 漢文。

挿絵 無し。

作者 「武州騎西籠華院沙門 大寂纂」（上巻「附録」内題下）。

刊記 「享和元年辛酉十一月刻成／龍華院藏板／書林／京都六角堂御幸町西三入町 小川多左右衛門／大坂心齋橋安堂寺町 大野木市兵衛／江戸浅草新寺町 和泉屋庄治郎」。

蔵書印 「覚丹護蔵」（朱印）。「仏国増輝／覚舟蔵本／□輪堂転」（円形朱印）。「此書一時藏在／大師子吼林中」（長方朱印）。

識語 「昭和廿年大呂廿七 於一誠堂求之 岸廼舎」（墨筆）。

備考 国会図書館、大正大学図書館蔵本、彦根城博琴堂所蔵本（資料館マイクロによる）と同版。享和二年戌六月廿五日の割印に「文殊靈驗集 全三冊／墨付百五十一丁／享和元年酉十一月／沙門大寂纂／同（板元売出） 右同人（和泉屋庄

次郎）」とある。

〔該本について、国文学資料館マイクロフィルム（ヤ3-47-1/0474）がある。〕

※「解題（二）」参照。

百座因縁 （二五九〇）

書型 大本三巻三冊。

表紙 灰色布目型押し文様。縦二十四・八糎×横十七・五糎。

外題 子持ち杵左肩「法譚／百座因縁 初編 上」。

目録題 縦十六・六糎×横三・一糎。中・下巻は題簽欠、打付書き「百座因縁 初編中（下）」（墨筆）。

内題 「百座因縁卷之一（二）目録」「百座因縁卷三目録」。

尾題 「百座因縁卷之一（三）」。

版心 「百座因縁卷之一（二）終」「百座因縁卷三終」。

序文 「百座因縁卷一（三）（丁付）」。

跋文 「紫豊僧雲洲識」。

構成 「無し」。

一之巻 三十丁（序一丁「ナシ」、目録一丁

「一」、本文二十八丁「二」「三」：「二十九」。

二之卷 二十八丁(目録二丁「二」、本文二十
七丁「二」「三」:「二十八」)。

三之卷 四十二丁(目録一丁半「二」「又二」
《表》、本文三十六丁「二」「三」:「三十七」、
藏版目録四丁「ナシ」、奥付 裏見返し)。

本文匡郭 四周単辺。無界。縦二十・六糎×横十四・六糎。
用字 序 一面六行 漢文。

挿絵 本文 一面十行 漢字交じり片仮名 ルビ付。
無し。

作者 「豊後洲 釈嚴浄僧英 述」(各卷内題下)。
奥付 「皇都書林 / 寺町通五条上ル町 / 藤井文政堂 /
山城屋佐兵衛」(裏見返し)。

藏版目録 「仏書目録 書林 / 京寺町通五条上ル町 / 山城
屋佐兵衛板」。「和漢諸書類 京都寺町通五条
上ル 山城屋事藤井佐兵衛」。

藏書印 一点あるが墨筆で消去。
識語 「昭和十三年十月南山書林於テ求之 / 真乘主人」
(墨筆)。

備考 「因縁集類世頗多焉百座法談亦天仁本有之 / 世
上流布者不少也 / 昭和十九年林鐘下浣於目白
求 / 岸廼舎」(墨筆)。
後印本。成田守氏『近世唱導集』(おうふう社、
平成13年4月)に翻刻と解題がある。底本は成

田氏所藏本で、刊記は「天保六年未初春新刻 /
大坂心斎橋唐物町 河内屋太助 / 京寺町通五条
上ル町 山城屋佐兵衛 / 尾張名古屋本町十丁目
松屋善兵衛」。

稲垣泰一氏「近世説経の話材とその方法」『法
譚百座因縁』を通して(『説話論集』四、清
文堂、平成7年1月)。

安東大隆氏「説法における因果」『百座因縁』
試論(『別府大学国語国文学』37号、平成7年
3月)。